

領域別評価のまとめ【 第2章～第5章 】

(領域のまとめ欄に入力)

第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項

第1節 (前文のため省略)

第2節 乳児期の園児の保育

平均 4.73

1 健やかに伸び伸びと育つ(身体的発達)

5.00

個人の生活リズムに合わせてそれぞれの欲求を満たしながら過ごすことが出来た  
また、個人の成長段階を十分に理解し、それぞれに合わせた環境設定を心がけた

2 身近な人と気持ちが通じ合う(社会的発達)

5.00

園児が何か伝えようとしているときは優しい雰囲気を受け止め、自分の思いを伝えられたことの喜びを共有し、意欲が湧くような働きかけを心がけた  
一人ひとりに対して肯定的な関わりをし、暖かく見守れる空間作りに努めた

3 身近なものに関わり感性が育つ(精神的発達)

4.20

感染症拡大防止を踏まえ玩具を制限して出すことになったが、中でもそれぞれの発達に応じた玩具を厳選して用意した。  
十分な数用意することができず、取り合いになることも多くあった。  
手作り玩具の用意が思うように出来なかったため、もう少し用意したかった。

2章2節  
領域の  
まとめ

第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育

平均 4.15

1 健康

4.29

子ども一人一人の思いを受け止め、保育者の応答的な関わりの中で、安心して自分の思いを言葉やしぐさで表現する。  
また、友だちとのかかわりも増え、トラブルもあるが、自分の思いも伝えながら少しずつ友だちも思いにも気づけるようになる姿も見られる。保育者や友だちとのかかわりを通して人と関わることの楽しさや喜びを感じていた。異年齢児とのかかわりを通して、興味を持ち、お兄さんお姉さんを真似て遊びに取り入れて楽しんでた。

2 人間関係

4.33

子ども一人一人の思いを受け止め、保育者の応答的な関わりの中で、安心して自分の思いを言葉やしぐさで表現する。また、友だちとのかかわりも増え、トラブルもあるが、自分の思いも伝えながら少しずつ友だちも思いにも気づけるようになる姿も見られる。保育者や友だちとのかかわりを通して人と関わることの楽しさや喜びを感じていた。異年齢児とのかかわりを通して、興味を持ち、お兄さんお姉さんを真似て遊びに取り入れて楽しんでた。

3 環境

4.00

葉っぱ、石、木などの自然物に触れて、遊びに取り入れて発展させていた。アリなどの生き物に興味を持ち、探したり観察をしたりして親しんだ。探索活動を通して、様々なことに興味を持ち、発見をして、新たな興味につながっていった。

4 言葉

4.14

子どもの一人一人の思いを受け止め、応答的な関わりを通して、安心して言葉で伝えることができるように関わった。  
友だちや保育者と「どうぞ」「ありがとう」などとやりとりを楽しむことができた。保育者がいなくても友だちとやり取りをして、会話を楽しむことができた。

5 表現

4.00	音楽に合わせて体を動かしリズム遊びを楽しんだり、歌を歌ったりして音楽に親しみ楽しんだ。遊びや生活の中で発見したことを伝えて、喜ぶ。安心して自分で表現することを楽しめるように肯定的なかかわりを心がけた。
2章3節 領域の まとめ	

<b>第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育</b> <span style="float: right;"><u>平均 3.73</u></span>	
<b>1 健康</b>	
3.80	戸外遊びも様々な体の動きが出来るよう工夫した。 コロナ禍の中で、友だちと一緒に楽しく食べる雰囲気作りは難しかった。 災害時訓練や防災放送には、すぐに真剣に取り組んでいた。
<b>2 人間関係</b>	
3.69	遊具や玩具が、楽しくなりすぎたり、使いかた、遊び方が乱暴になる時は、子どもたちでどうやればよいのか考えていく機会を作っていた。異年齢で過ごす中で、年上の子の真似をしたり、年下の子に遊び方を教えてくれる姿が常に見られた。
<b>3 環境</b>	
3.67	自然事象の変化に気づいたり、おもしろさへつながらよう、環境を工夫した。生き物の身近に育てることで、成長の変化に気づいたり、世話することに楽しい感じていた。
<b>4 言葉</b>	
4.00	絵本や物語に多く触れる機会を作ったが、異年齢での難しさがあった。
<b>5 表現</b>	
3.50	自分の意見や、感想を伝える機会を作っていた。 劇あそびへの発展から、達成感までつなげることができなかった。 描いたり、作ったりすることを楽しんでいたが、もっと多くの素材や技法などに触れる機会を持っていきたい。
2章4節 領域の まとめ	

<b>第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項</b> <span style="float: right;"><u>平均 4.81</u></span>	
<b>1 満3歳児未満の園児の保育の実施における配慮事項</b>	
(1) 乳児期の園児の保育に関する配慮事項	
5.00	子どもたちの体調面、情緒面について家庭と連携をとり一日を安全に安定した生活が送れるよう職員間で子どもの成長や発達についての細かい部分も含めて伝え合った。また、保護者の子どもについての悩み、相談など聞いて提案やアドバイスを行った。

(2) 満1歳以上満3歳未満の園児の保育に関する配慮事項	
4.50	子どもの様子に応じた保育を心掛けた。その日の体調を見て散歩や園庭で遊んだり、室内で穏やかに過ごしたり保育士間で話をして1人ひとりの様子を確認をし、保育を行った。年上の子と関わる事もあり、遊びを見ていたり、同じ遊びをしてみたりとその場で保育にあたる保育士と安全に遊びを楽しむ事が出来るように見守った。
<b>2 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の全般における配慮事項</b>	
4.83	子どもの「したい・やりたい」の1人ひとりの話を聞いた上で遊びや言葉の発達を促すことができるように配慮し、保育を行った。1人1ひとり、できる事、できない事が違うのでそれぞれに合った方法で保育を心掛けた。子どもの様子で側にいたり、抱っこやおんぶをしたりと情緒の安定を図った。
2章5節 領域の まとめ	

<b>第3章 健康及び安全</b>		<b>平均 4.35</b>
<b>第1節 (前文のため省略)</b>		
<b>第2節 健康支援</b>		
4.88		0
<b>第3節 食育の推進</b>		
4.17	食育の会議には、保育者と給食から管理栄養士が参加して、子どもたちへの援助や計画を立ててきた。その都度子どもの姿に寄り添って遊びに取り入れたことが良かった。保育者は、もっと情報共有し共通理解をして食に興味が出て、好きな食べ物がどんどん増えていける環境を作っていくように来年度の課題となった。	
<b>第4節 環境及び衛生管理並びに安全管理</b>		
4.14	コロナ禍の中で、環境整備と清掃を徹底して感染予防に努めている。在園中の発熱した園児への対応は難しく、園長や副園長と相談しながら対応している。	
<b>第5節 災害への備え</b>		
4.14	日々挨拶を大切に、どんな方が地域の方に住んでいてもしもの時に連携をとれるかを考えながら過ごしている。地域の方には、日頃の様子を園内の新聞を利用して情報公開をしてきた。地域の奉仕活動にも参加して、お互い助け合いができる関係づくりに努めた。	
3章 領域の まとめ		

<b>第4章 子育ての支援</b>		<b>平均 4.25</b>
<b>第1節 (前文のため省略)</b>		
<b>第2節 子育ての支援全般に関わる事項</b>		
5.00	保護者に寄り添い、支援において何を必要としているかを考えながら対応をしている。保護者の情報などについてはマニュアルや研修を通して周知し徹底していくように務めた。	
<b>第3節 幼保連携型認定こども園の園児の保護者に対する子育ての支援</b>		

4.25	コロナ禍なので制限せざるを得ないこともあったが、感染症対策などをしっかり考えた上で保護者参加できることも取り入れていくことができた。またコドモンアプリのドキュメンテーションを活用して、園で行われていることを可視化することで保護者の方に様子がわかるようにした。また保護者から相談等あった場合には、話をできる環境を整えていくようにした。
<b>第4節 地域における子育て家庭の保護者等に対する支援</b>	
3.50	子育て支援センターを通じて地域の保護者が利用できていた。コロナ禍の中でできる範囲の取り組みを行うようにした。
4章 領域の まとめ	

<b>第5章 職員の資質向上</b> <u>平均 3.44</u>	
<b>1 職員の資質向上に関する基本的事項</b>	
3.00	それぞれの課題点を見つけ、質の向上につながるように今後も努力していく。
<b>2 施設長の責務</b>	
3.50	計画的にはいかないところもあったが、時間をとって研修を受ける機会があった。
<b>3 職員の研修等</b>	
4.00	園内研修やオンライン研修を用いて、保育の質の向上に努めている。同じ方向を向いて保育ができるようこれからも研修を活用しながら質の向上に努めたい。
<b>4 研修の実施体制等</b>	
3.33	研修を行った後のすり合わせや今後の保育について考える機会に課題があるため、研修計画とともにしっかりと整えていきたい。
5章 領域の まとめ	